

構造計算プログラム BUS-6/BUS-5 をご利用のお客様 各位

平成30年3月30日
岡部株式会社
旭化成建材株式会社

【BUS-6/BUS-5 からの柱脚検討用データについて】

構造システム社製構造計算プログラム **BUS-6/BUS-5**（以下「BUS」という）は、構造のモデル化の際に [モデル化条件-共通]項目にて部材中間への節点生成が可能であり、柱脚部へのブレースの鉛直方向偏心接合がモデル化できるようになっています。

しかしながら、BUS では中間節点を生成する指定の有無に関わらず、ブレース取り付け位置の鉛直方向の偏心距離が入力できるようになっています。BUS で中間節点を生成せずにブレース鉛直偏心距離を入力した場合に、BUS が弊社柱脚検討プログラム BTM（以下「BTM」という）に出力する柱脚検討用データにおいて、柱脚に作用する応力の出力内容が BTM における処理内容と一致しないケースがあることがわかりました。

BUS からの柱脚検討用データを用いて BTM で応力確認を行う際は、BUS 側において中間節点の生成は「考慮する」設定で柱脚検討を行ってくださいようお願いいたします。

BUS 側のデフォルト設定では中間節点の生成は「考慮する」設定ですが、何らかの意図があり中間節点の生成の設定を変更し、BUS の出力結果と BTM の処理内容が異なった場合はご相談くださいようお願いいたします。

以上